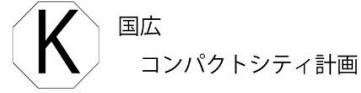


<新版>国広開発計画

国広開発計画を大幅に変更します。



1, 国広コンパクトシティ計画

これから高齢者などの社会的弱者が増加してくるなかで従来の街づくりを見直し、社会的弱者も生活しやすい街を作ります。また、2043年を見据えて、若者だけでなく高齢者が減少しても柔軟に対応しやすい街にします。

2, 国広駅 新駅舎

国広コンパクトシティ計画やあいち伝統の杜号の運行に合わせて国広駅新駅舎計画を見直します。木造とRC造のハイブリッド工法を採用し、木造の温かみを感じながらも複雑な構造に対応します。また、木造部分には、地元愛知の木材を使用することによって愛知の木材の魅力を伝える場とします。(尚、新駅舎概要については後日お伝えします)

3, 農業ビル

食料自給率が66%(平成30年度、生産額ベース、農林水産省調べ)である日本では若者の農業離れが深刻化しています。その原因は様々ですが、原因の一つに農地の多くがある地域の利便性が非常に低いことが挙げられます。そのため、国広電鉄では「都市型農業」を推進することが非常に重要なことだと考えています。農業ビルでは、ニューヨークのロウラインで利用されている技術を応用し、ビルの中でも農業を行える環境を整える予定で、他にも利用者同士で資金面での援助や農業器具の貸し出しを行えるようにする予定です。

4, 最新設備の導入

現在国広電鉄が進めている国広開発計画では新しく街をつくるという点を活かして、最新設備の導入を行います。(詳細は後日お伝えします)

5, ライトレールの導入

国広電鉄では、コンパクトシティの実現のためにライトレールを導入します。ライトレールを導入することにより環境にやさしい街づくりを推進できます。(詳細は後日お伝えします)また、線路沿いにゴミ箱やリサイクルボックスを設置することにより、街中の美化に貢献するほか、ライトレールの線路上に回収用車両を走らせ、自動的に回収することにより、人件費の削減や職員の負担軽減に貢献します。(こちらも同じく詳細は後日お伝えします)

6,ラルゴレジデンスによる開発

国広コンパクトシティを実現させるためにラルゴレジデンスによる分譲マンション、賃貸マンションなど幅広い物件を用意します。(尚、前回お伝えしたラルゴレジデンスとは大幅に内容を変更する予定です)一か所に集中させることにより効率のよい街づくりを実現し、インフラ整備やメンテナンスなどの面で他の街と比べて圧倒的な優位性を持つことができます。(詳細は後日お伝えします)

7,愛知の伝統を伝える街づくり

愛知県というのは戦国時代の武将らをはじめ、歴史上で多くの重要な出来事があった場所です。同時に昔からモノ作りが盛んでここにしかない技術がたくさんあります。それらの技術は一度途絶えてしまっはなかなか取返しがつきません。国広電鉄では皆様に電灯を知ってもらうことで伝統は継承されていくと考えています。そこで、国広の街では愛知の伝統を次の時代へ継承していく街をつくります。(詳細は後日お伝えします)